

RKU Today

流通経済大学広報誌

WINTER 2014



【特集】

春休み旅行計画
“Youはどこに?”

流通経済大学

vol.26

04 【特集】

荒井宏和（スポーツ健康科学部准教授）：編

春休み旅行計画“Youはどこに?”

10 【学長室だより】

小池田富男（流通経済大学長）

大学改革実行プランに寄せて

12 【連載】ウェストバージニア大学留学記
第4回〈最終回〉

山岸直基（社会学部准教授）

ウェストバージニア大学を愛している人たち、 そしてパーカーの話

14 Close Up!

流通経済大学

〔教職員紹介〕

16 【馬場啓一のRKUウォッチング】

文：馬場啓一（法学部教授）

「ポジティブに生きることを学生たちに教えています」 アダム・ジェネス 社会学部講師

18 【OB/OG訪問】立川が聞く。

取材：立川和美（社会学部准教授）

柴田美穂さん（1999年3月卒業・静鉄ジョイステップバス株式会社勤務）

20 【留学生紹介】

取材：沖野雅広（企画広報室）

徐 裊さん（中国出身） 「日本人についてもっと知りたい! その気持ちが私の原動力」

21

流通経済大学校友会・図書館・ 三宅雪嶺記念資料館からのお知らせ

22

NEWS & TOPICS

関東大学ラグビーリーグ優勝／全日本新体操選手権大会個人総合優勝
第48回つくばね祭開催／「新松戸 光のフェスタ」開催／クリスマスコンサート開催
高円宮杯U18チャンピオンシップで付属柏高校が優勝

巻頭言

RKU Today WINTER 2014



今般駐日アメリカ大使になられた
キャロライン・ケネディ女史の父上である
故ジョン・F・ケネディ大統領は、
その政策スローガンに
「ニュー・フロンティア」
という言葉を使った。
半世紀も前のことである。
フロンティアとは開拓の地、の意味だ。
すなわち「新たな開拓の地を求める」が、
その内容であった。
新たな挑戦、ということである。
学生諸君にも是非このチャレンジ精神を
見習ってもらいたい。
学術に限らず運動、趣味、サークル活動、
ボランティアなどなど、
そのジャンルは問わない。
新たな挑戦を自らに課すことで、
新たな未来が開けてくるはずである。
諸君には洋々たる前途が
見えてくるだろう。

①ノートルダム大聖堂背後の岩山に建つ「フランスの聖母像」②岩山に建つサン・ミッシェル・デギレ礼拝堂 ③ル・ピュイ（いずれもル・ピュイで購入した絵葉書）

Nobuko Takahashi's Travel Story

フランス

France

心に残るフランス人紳士との出会い

高橋伸子（国際観光学科講師）

一九八九年の冬、仕事でフランスのパリに三カ月滞在していた。帰国直前に、友人とル・ピュイ（Le Puy-en-Velay）を訪れた。ル・ピュイはフランスの中心部火山地帯オーヴェルニュ地方に位置していて、パリからTGV^{※1}や在来線乗り継いで四時間ほど。町に二つの大きな奇岩（コルネイユ岩山とサン・ミッシェル岩山）があり、その上に建てられた聖母像と礼拝堂が町を見下ろすという独特な景観を持つ町。今はユネスコの世界遺産の一つとして登録されているので訪れる日本人観光客もいるが、当時は日本人に出会うことはなかった。

パリへ向かう帰りの列車で、ボックスシートに乗り合わせた男性から「シノワ？（中国人ですか？）」と話しかけられた。彼の身なりは、よれよれのコート、髪もボサボサ。風采^{ふうさい}のあがらない初老の男性という印象。「ノン・ジャポネーズ（いいえ、日本人です）」と答えたところ、「この地域に日本人が観光に来るなんて、非常に珍しいね！」と驚いていた。私たちは、短期間だがパリに滞在しフランス各地を旅行している

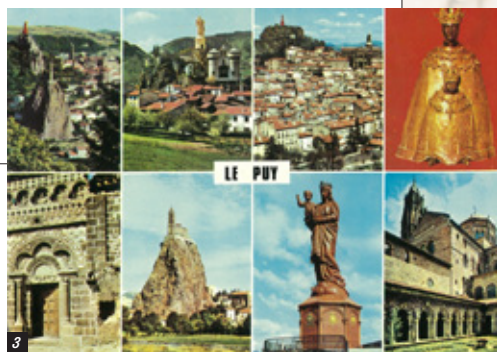


を許した友人が、「ただひとつ残念なことがある。それはパリの人々は日本人に冷たいことだ。先日、エルメス^{※2}でスカーフを探したが、相手にされなかった」。この話を聞いて彼は少し考えてから、「実は、私はエルメスに関係がある。明

こと、旅行を通して多くのフランス人の優しさに触れたこと、訪れた場所はすべて良い思い出になっているなど、覚えてたのフランス語と英語（と言っても相当 broken だったろう）で伝え、彼も笑顔で頷いていた。会話が弾んだことに心

日、エルメス本店で待つているのでいらつしやい」と。私と友人は、「へえ、そうですか。では明日伺います」と軽く答えものの、行つて良いのか迷つたが、「まあ、とにかく行つてみよう」。

翌日、列車で出会うたおじさん^①に会うために友人とエルメス本店へ迎えてくれたのは昨日の風采のあがらないおじさんではなく、高級スーツを身に纏い、ポケットチーフまで完璧なコーディネート、髪は整髪剤できちんと整えられ、靴はピカピカ……!? 見違えるようなフランスのお洒落な紳士だった。「え、同じ人？ いやいや顔は間違いない……」。私と友人は、まさに鳩が豆鉄砲をくらったような顔で、呆気にとられていた。彼は、驚く私たちを店内の奥へ招き入れ、一般人が入れない部屋（エルメスのデザイナーの基になっている馬具等が展示してある）を案内して説明してくれたのだ。その後、職人がバッグを製作しているところを見学、最後



だが、友人は笑顔でその答えを聞いていた。彼は、「パリの人は決して冷たいわけではないんだ。パリには世界中から大勢の人があつまるだろう。だから自然に防衛してしまふ。決して日本人に冷たいわけではないんだよ」。彼のサブライズは、私たちの誤解を解くのに十分だった。いいえ、それ以上の心遣いである。たまたま列車で居合わせただけの私たちに、普段入ることのできない場所を案内してくれた。彼。風采のあがらないおじさんなんて、失礼な！ 私たちは、彼に心からの感謝の言葉を伝え、その日の夜にパリを発つた。彼がいつか何者なのか、気にはなつたが尋ねなかつた。心と心が通い合った時、そこに肩書は関係ないから。彼との交流は今でも心に残っている。このような人とのふれあいは海外旅行の醍醐味だろう。学生の皆さんにこそ経験してほしい。

〈特集〉

春休み旅行計画

“Youはどこに？”

荒井宏和（スポーツ健康科学部准教授）：編

本誌が発行されると、間もなく学生たちは2カ月近い春休みに入ります。社会に出るとなかなか取ることのできない長い休暇を利用して、海外へ出て見聞を広めてみるのもいいでしょう。今回の特集では、本学の教員に海外での思い出話を語っていただきました。さて、Youはどこに？



はじめに
平成二四年度の観光庁による観光白書によると、日本人の海外旅行者数は、平成二四年度は過去一〇年で最も多い八四九万人とのことである。旅行先で最も訪れる国は、韓国が三五・九万人で、次いで中国の三五・八万人であるという。また東南アジア諸国に目を移すと台湾やタイ、香港、ベトナム、マレーシアの順で高い人気がある。平成二年の東日本大震災で日本を訪れる外国人も含め海外旅行を楽しむ人々は減少傾向に転じるかと思われたが、ここ最近の観光に関する人々の注目度はとても高い。しかし、その一方で大学生が積極的に海外に出かける機会が減少傾向にあるという。その理由は、金銭的な問題もそうだが、海外を旅行するということは、そこに通常とは異なる高い行動力が求められるというのも一因として考えら

れる。社会人よりも多少時間の余裕がある学生時代に、ぜひ海外旅行を経験して、異文化や人との交流を積極的に体験し、自らの見聞を広げる機会にしてみたい。海外から日本をみると、意外と知らなかつた日本の良さを知ることができるだろう。とはいえ、日常の生活と全く異なる海外で、ことばの問題、滞在国の治安、トラブルに巻き込まれたときの対応などを考慮すると、しっかりとした情報収集が必要だ。これから、春休みや夏休みを利用して海外旅行や、卒業旅行で良い思い出作りをしようと計画している、さらに卒業してから海外出張があつたり、新婚旅行で海外に行くなど様々な機会が訪れると思う。本学の教員には海外での生活や出張の機会など経験豊富なものが多い。そこで、様々な旅の経験を語っていただき、学生の皆さんには参考にしていただきたい。



1 アンコールワットの前にて撮影
2 森の中に浮かぶアンコールワット
3 ピックアップトラックの荷台に乗っ
ての移動

Toru Tabata's Travel Story

タイ・カンボジア 他

Thailand

あえて面倒くさいことを

田畑亨 (スポーツ健康科学部准教授)

最近、LCCの本格的参入によつて本当に安価で海外に行くことが可能になった。また、インターネットの普及によつて、ボタンをクリックするだけで、航空券の購入、ホテル・現地ツアーの予約が簡単になった。私が、学生時代に海外旅行をしていたころは、新宿のガード下で店を開いていた旅行会社で格安航空券を購入し、ホテルの手配は現地で行っていた。今と比べたら、昔は面倒くささがあつた。しかし、この面倒くささから様々な経験ができ、また旅行の楽しさが倍増したと思う。

目的地には直行便より、経由便で行く。その方が安価で行くことができる。経由地に寄ることは、おまけみたいなもので乗り継ぎ便を待つている間、街に行き市内観光ができる。ホテルの予約は行わず現地で直接ホテルを探す。私は学生時代、東南アジア諸国を中心にバック一つ(バックパッカー)で旅行をしていたが、これらの国々には、必ずバックパッカー向けの安宿街がある。そこを目指す。安宿街には、世界中からバックパッカーが集まっていて、あそこのホテル



国々を指すが、タイはこれら国々に行くのに便利であつたからである。また、国全体がとても刺激的であつた。私が一番印象に残っている旅行は、タイからカンボジア・アンコールワットに行った際に陸路で行つ

たことである。タイ・バンコクからバスでタイとカンボジアの国境まで二時間かけて行く。ここまで約六〇〇円(当時のレート)。そこでカンボジアの入国手続きを済ませて徒歩で国境を越える。島国ニッポンで育った私にとって、初めて徒歩で国境を越えた経験はとても印象的だつた。カンボジアは長引く内戦の影響で国の発展が遅れていた。タイ側の国境までは、車道はコンクリートで舗装されていたが、カンボジア側の車道は、コンクリートではなく、砂利の道路であつた。国境を越えるだけで、文字も言葉も、紙幣も食べ物も、様々なものを変化させてしまう魔法の線の様に映って見えた。

カンボジア側でピックアップトラックの荷台に十数名が乗り合わせて(二ドルだつたと思う)、アンコールワットがある都市シエムリアップまで向かう。車道は砂利のため、車は非常に揺られて走行する。途中でタイヤが溝にはまると、荷台から旅行客が降りて車を押す。移動中は様々な国の人々が乗っているため、自己紹介からはじまり、

乗せた旅客機は直接ここに降り立つのだ。凄いいことを考えるね。本学に赴任してからは、めつきり海外のお仕事は減つた。それでも一〇年ほど前に中国の西安に行つた。成田と西安の直行便を日本航空が就航させるにあたり、週刊朝日に署名記事を書けつたのだ。一種の露払いといった格好である。「日本文化論」の講義で空海を紹介しているので、弘法大師が留学した唐の都長安を訪れることができたのは嬉しかった。

この仕事で印象的だったのは、媒体の週刊朝日も、扱ひ広告代理店である電通も、そしてスポンサー日本航空も、全て担当が妙齢の美女ばかりだつたこと。逆にアシスタントが男なのだ。三〇年前なら考えられない。あまつさえ朝日新聞広告部の男性は契約社員、かつてとアベコベである。男女雇用機会均等法のお蔭さと、大学の先輩の電通社員が話していたことを思い出した。

自分の国の話をする。国連大使にでもなつたつもりでお互いの国の友好関係を築く。これもいい経験になつた。



1 イェール大学のバナー 2 アルフレッド・ダンヒル社3代目社長リチャード氏と歓談 3 『愛と哀しみのライカ』(シンコー・ミュージック社刊)

Heichi Baba's Travel Story

オーストラリア 他

Australia

世の中は女性の時代

馬場啓一 (法学部教授)



英国スコットランドにセント・アンドリュースという土地があり、ゴルフの聖地とされる。アルフレッド・ダンヒルのお仕事で、トーナメントの取材をしたのである。ここに、私自身はゴルフをしないのに、二度行つた。このときレセプションで、ウィリアム王子にお目にかつた。王子はセント・アンドリュース大学に在学中だつたのである。

初めての海外旅行は四〇年前で、オーストラリアのシドニーから当時世界第八位の豪華客船に乗つて、南太平洋をクルージングした。ガダルカナルとかニューメアといったところを回り、飛行機でシドニーに戻る。昼食はいつもカレーで、カルカット風、ゴア風、ニューデリー風と、毎食異なる味付けだつたのが印象的であつた。

以来三〇カ国は訪れている。テレビのCMのお仕事と、雑誌の取材がそのメインだ。それらの体験を元に、二三年前に書いたのが『愛と哀しみのライカ』という短編集。講談社文庫に入っている。表紙は本誌でお馴染みの佐々木悟郎



氏。アメリカ東部のアイビー・リーグ八校を回つたのは三五年前である。VAN DYKE KETTのお仕事だつた。ボストンのハーバード大学近くで買った古いライカⅢfというカメラが、タイトルの由来。

ギリシャの取材ではミコノス島のガイドから、近くに日本人の所有

する島があると聞いた。大小の島が点在するエーゲ海である、どういふ奇特的な御仁が島を買つたのだろう。

「ハルキ・ムラカミって知っているか」ガイドが言つたのは意外な名前だつた。「知ってる。有名だよ。いくらく



らいで島を買つたの、村上春樹は」「メルセデス・ベンツ一台分くらいかな」

色々な国に行くと様々なことに

出くわすものである。サミー・ソーサで知られるカリブ海の島国ドミニカ共和国では、カサ・デ・カンボという大きなリゾート・タウンに滞在した。ダビドフという葉巻のお仕事である。

宿泊者は名づつバンガローをあてがわれる。バンガローといっても建坪一〇〇平米はある。うちより広い。それらが点在する一帯を横切るように、大きな道路が走っている。

リゾートに、こんなにデカイ道路が必要なのか、と思つていた。ちなみに移動はゴルフ場にある例のカートである。

すると、ゴーと轟音がして、一機のジェット機が降り立つた。道路だと思つたのは実は滑走路であつた。北米や欧州各国からの観光客を

乗せた旅客機は直接ここに降り立つのだ。凄いいことを考えるね。

本学に赴任してからは、めつきり海外のお仕事は減つた。それでも一〇年ほど前に中国の西安に行つた。成田と西安の直行便を日本航空が就航させるにあたり、週刊朝日に署名記事を書けつたのだ。一種の露払いといった格好である。「日本文化論」の講義で空海を紹介しているので、弘法大師が留学した唐の都長安を訪れることができたのは嬉しかった。

この仕事で印象的だったのは、媒体の週刊朝日も、扱ひ広告代理店である電通も、そしてスポンサー日本航空も、全て担当が妙齢の美女ばかりだつたこと。逆にアシスタントが男なのだ。三〇年前なら考えられない。あまつさえ朝日新聞広告部の男性は契約社員、かつてとアベコベである。男女雇用機会均等法のお蔭さと、大学の先輩の電通社員が話していたことを思い出した。

自分の国の話をする。国連大使にでもなつたつもりでお互いの国の友好関係を築く。これもいい経験になつた。

1 オーストラリア・ゴールドコースト:Queensland Number Oneより撮影 2 スペイン・バルセロナ:ガウディーのデザインで改修された住宅、「カサ・バドリョ」 3 イギリス・ロンドン:大英博物館前のスターバックスから 4 スペイン・バルセロナ:サグラダ・ファミリア

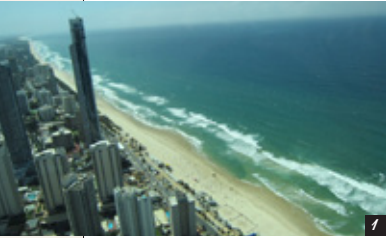
Hirokazu Arai's Travel Story

オーストラリア 他

Australia

苦勞して海外旅行を経験、その経験が活かされる

荒井宏和 (スポーツ健康科学部准教授)



1

に通いながら、アルバイト代から毎月二万円を貯金して旅費を工面した。学生時代にバブル期を迎えた世代であったが、華

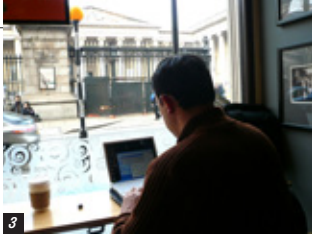
が、初めて海外旅行に行ったのは、大学院修士課程一年終わりの一九八九年三月ごろでした。当時の所属は理工系でしたので、ゼミというか「〇〇研究室」という単位で、勉強・研究、そして遊びも含めた生活そのもののベースになっていました。で、当時の博士課程の先輩からの「みんな、卒業旅行で海外に行くぞ!」の一声。もちろんまだ修士二年でしたので、卒業でもない私でしたが、有無を言わず一緒に海外に行くことになりました。総勢で二〇名ぐらいだったと記憶しています。

一九八〇年代後半は、世に言う『バブル経済』の真っ盛りで、学生も手軽に海外旅行に出かけ始めた頃でした。アルバイトで貯めた一〇万円で行った先は、「サイパン島」でした。もちろん安全で快適なバック旅行だったのですが、バック旅行でありがちな「無料の観光地巡りツアー」で、サイパンの第二次世界大戦当時の戦争の爪痕を見ました。そして、今の日本を創るためにささげられた多くの人たちの命があることを知りました。それまでは、海外に出たこともなく「日



2

やかなライフスタイルとは全く異なる質素で儉約の日々を送っていた。ちょうどビザ取得のためオーストラリア大使館に行く日に湾岸戦争が始まり、世の中は海外旅行を自粛する風潮にあった。駅でタクシーに乗って行き先を告げると、着いた



3

先がオーストラリア大使館だった。私の発音が悪かったのか、先が思いやられる。オーストラリアには三七日間滞在し、現地英会話学校やホームステイを経験し、ゴールドコースト、サンシャインコーストでライフセービ

ング活動を体験することができた。また一人で長距離バスに乗る旅行計画を立て、一週間四〇時間もかけ、ブリスベン・アデレード・シドニー・エアーズロックを周り、バックパッカーズでは盗難に遭うなど、良いことも悪いことも貴重な経験ができた。そのときに記した日記を読み返すと苦勞してお金を貯め、オーストラリアに到着したときの感動や戸惑いが伝わってくる。その後、学生時代の旅行がきっかけで、仕事も含め合計二〇回以上も渡豪し、お互いにホームステイをしあう現地の友達もできた。もともと旅行計画を立てることは苦に思わず、海外の国内線の予約をしたり、現地の電車に乗って旅行をするのはとても楽しいと思っていたが、オーストラリアでは、シドニー・パース・シドニー・ブリスベン・シドニーと大陸を横断し時差とサマータイムで時間の感覚が薄れたこともあった。その他、ニュージールランド(二回)、香港(二回)、ドバイ(二回)、南アフリカ(二回)、イタリア(二回)、ドイツ(二回)、ロシア(二回)、スペイン(二回)、イ

ギリス(三回)、ポルトガル(一回)、デンマーク(一回)などに行ったが、写真やインターネットで見た文化遺産や風景を実際に見ることができたのは貴重な体験である。特にスペインのサグラダ・ファミリアやロシアの赤の広場、ロンドンのパッキンガム宮殿、ビックベンなどは実際に見る価値がある。結婚して妻と北マリアナ諸島の島々を飛行機を乗り継ぎながら旅行した思い出も懐かしい。社会人になつても、海外渡航をする機会に恵まれていることはとてもありがたいが、その多くは仕事である。学生時代にバックパックを背負つて二人旅した経験が、海外での行動力に活かされたと信じたい。しかし、いずれも日本に帰国したときに思うことは、「やっぱり日本がいい!」と再認識することである。海外に行かなければ改めて日本の住み易さを実感することはないだろう。



4

Hiroyuki Seki's Travel Story

イタリア 他

Italy

私の海外旅行記

関 宏幸 (流通情報学部教授)



1

が、初めて海外旅行に行ったのは、大学院修士課程一年終わりの一九八九年三月ごろでした。当時の所属は理工系でしたので、ゼミというか「〇〇研究室」という単位で、勉強・研究、そして遊びも含めた生活そのもののベースになっていました。で、当時の博士課程の先輩からの「みんな、卒業旅行で海外に行くぞ!」の一声。もちろんまだ修士二年でしたので、卒業でもない私でしたが、有無を言わず一緒に海外に行くことになりました。総勢で二〇名ぐらいだったと記憶しています。

一九八〇年代後半は、世に言う『バブル経済』の真っ盛りで、学生も手軽に海外旅行に出かけ始めた頃でした。アルバイトで貯めた一〇万円で行った先は、「サイパン島」でした。もちろん安全で快適なバック旅行だったのですが、バック旅行でありがちな「無料の観光地巡りツアー」で、サイパンの第二次世界大戦当時の戦争の爪痕を見ました。そして、今の日本を創るためにささげられた多くの人たちの命があることを知りました。それまでは、海外に出たこともなく「日



3



2

本人である」ことを意識して行動をした記憶もない私でしたが、突然「日本人」を意識するようになったことを覚えていています。その後、大学教員となり国際学会で数多くの国を訪

国に行かせてもらっています。その中でも強烈な印象は、ミラノです。学会も無事終わり、パリ経由で日本に帰るだけとなり、ちよつと早めにミラノの空港に行きました。バスポートコントロールを終え、何気なく自分の乗るべき飛行機のボーディング・ボードを見ていたら、いきなりの「cancel」の文字が…。さらに構内放送を聞いてみると、「Mr. Hiroyuki SEKI」の呼び出しが…。パニックになりながらも、インフォメーションを見つめ、つたない英語で聞いてみると、イタリア語で返事が返ってきたので、思わず「Please, English only!」と叫んだら、インフォメーションの女性

は、欧米人がよくやる両手を広げて「やれやれ」といった感じで、さらには周りに居合わせた人にも失笑を買ってしまいました。どうやら彼女は初めから英語で話していた、単に私が聞き取れなかっただけなのでした。要は「あなたの乗る飛行機はキャンセルになったので、車で三〇分ほど離れた別の空港から、日本行きの直行便が出る。

あと二時間後だ」とのことでした。彼女は、さらに何か言っていました。私はすぐさまタクシーに乗り、直行便が出るという空港に向かいしました。しかし乗り込んだタクシーは、いわゆる白タク(無許可タクシー)でした。普段なら気を付けるのですが、焦るところなことはないですね。まあそれほどボラレルこともなく、無事に目的の空港につくことができました。すぐさまチケットカウンターに行き、事情を話すと、すぐに理解してくれ、無事に飛行機に乗ることができました。あとあとよく考えてみると、どうも前の空港のインフォメーションの女性は、「三〇分後に日本行き直行便の空港行きの無料バスが出る」と言ってくれていたことに気づきました。空港での迅速な対応を勘案すると、「バスに乗るべき東洋人がイタリアのミラノの空港で迷子になっている」と探していたようでした。何はともあれ無事日本に帰国することができました。帰国直行便のアリタリア航空の食事がおいしかったのが唯一の救いでした(笑)。

「学長室だより」

大学改革 実行プランに 寄せて

学長 小池田富男



vol. 19

Tomio Koikeda
Gakuchoshitsu Dayori

Next 50へのキックオフ

流通経済大学は二〇二五年に創立五〇周年を迎える。一九六五年に入学定員二〇〇名の単科大学から出発して、現在では五学部八学科、大学院五研究科を擁し、収容定員が五二四五名の規模にまで成長した。しかし少子化が進むなかで、首都圏の周辺部に位置し、いまだ歴史の浅い本学のような中規模大学が更なる発展を遂げるためには、不断の改革・再編が必要であろう。

そこで創立五〇周年を節目に、二〇二〇年を用途にして抜本的な組織改革を図り、Next 50に向けた「大学改革実行プラン」を策定し、更なる発展のための礎を固めなければならぬ。既に大学に「将来構想検討委員会」が設置され、「学部構成検討部会」、「新学科開設準備部会」、「教育課程改革部会」、そして「大学院検討部会」の四つの部会に分かれて、改革実現のための中・長期の改革プランが検討されている。

これらの各部会において、当面は学長への提言という形で改

革の原案が取り纏められ、それらの報告にもとづき学長の下で「改革実行プラン」が策定され、最終的には理事会の同意を得て、二〇二五年から適宜実行に移されていく段取りになる。そのためには、このプランの策定にあたり、改革の基本的枠組みとともに、本学がこれから進むべき方向性について、明確なグランドデザイン※1を提示する必要がある。

「建学の精神」と 流経大ブランドの再構築

経済のグローバル化と高度情報化、そして人口減少社会の到来のなかで、21世紀においても我が国が世界をリードしていくためには、世界に向けた文化的発信力を高めるとともに、イノベーション※2の推進による急速な技術革新を実現していかなければならない。そのためには、高度に専門的知識を備え、かつ個性と才能を発揮できる多様な人材を育成することが、我が国高等教育に課せられた焦眉の急になっている。

流通経済大学は、数多ある

来を担う人材にとって不可欠の要件になろう。

また、我が国が21世紀型の「イノベーション立国」を目指して国際競争力を強化するためには、不確実で多様な変化にも対応でき、新たな価値や産業を生み出す創造力豊かで「企業家精神」を持った人材を育成することが不可欠になる。こうしたビジネスマインドとともに、ロジスティクスをはじめとする専門知識、そして英語力やICT等の専門的スキルを持った人材を多く輩出することこそ、グローバル時代において他大学には真似のできないブランド力になろう。また、何を教えるかということもさることながら、いかに教えるかが重要であり、PBL※3型授業の中で、自ら新しい課題を発見し、正解のない問題に果敢に取り組む人材を育てることが、本学の教育でなければならない。

学部学科等の再編と 新学科の設置

21世紀に入り日本経済は成熟段階を迎え、科学技術にお

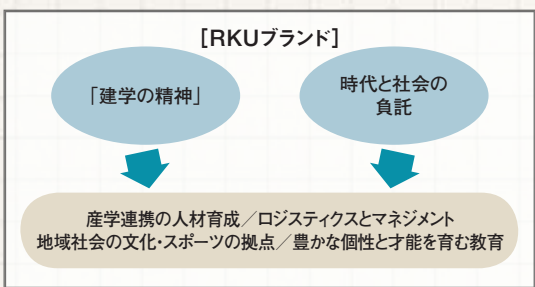
いても世界の最先端にあつて、欧米にキャッチアップする時代は終焉を迎えた。欧米の知識を学び蓄える時代ではなく、世界をリードする新しい「知の発見」や、技術の開発が必要になる。また、高度経済成長期のように労働力需要が持続的に拡大することも見込めず、それを前提にした人材育成も必要ではなくなった。少数ではあつても、個性と才能を発揮できる創造力豊かな人材を育てることこそ高等教育の新たな課題となり、「大学改革実行プラン」もそれに対応しなければならぬ。

そこで十八歳人口が更に減少していく中で、今後も収容定員五〇〇〇人規模の中規模総合大学として存在感を誇示していくには、既存の学部学科の再編から着手しなければならない。それぞれの学部学科の定員変更に対応させて、新しい学部学科の開設も必要になろう。その際、現在の二割ほどの女子学生の比率を倍増でき、かつ地域社会の要請と受験生のニーズにも対応した、新学科の開設が望まれる。また、どの

学部学科も、ロジスティクスとマネジメントを教育課程の核に据えるとしても、棲み分けを明確にしなければならない。

本学の学部教育において、産業界で活躍できる指導的人材の育成という目標は明確であるが、しかし創造力は幅広い知識と視野から生まれるものであり、教養教育と専門教育の調和のとれた教育が不可欠である。大学院教育での「専門的職業人の育成」とは異なることに配慮しなければならない。また流通経済大学がその存在感を誇示できるとすれば、むしろ我が国唯一と言って良い物

流分野に特化した大学院研究科での専門教育であり、その趣旨に沿って、物流情報学研究



改革の基本項目

教育改革	1.入学定員の適正化と教育組織の再編 2.新学科の開設 3.教育内容の改革 4.新校舎の建設とキャンパス整備
研究改革	1.研究環境の整備 2.研究促進の助成 3.学内共同研究の活性化 4.外部資金導入の促進
学生支援・社会貢献	1.国際交流の支援 2.課外活動の促進 3.地域社会との連携 4.ボランティア活動の組織的支援

科を軸にした大学院研究科の再編も必要になってくるものと考えている。

私立大学の中でも、物流業界を中心とする産業界の要請にもとづいて、世界屈指の総合物流企業である日本通運株式会社が法人として資金を拠出し、設置した大学であり、それだけにその公共的使命も大きい。その教育及び研究の理念と目的は、「建学の精神」にもとづいて明確であり、全ての学部学科および大学院研究科において、「ロジスティクス」と「マネジメント」を核にした人材の育成と研究を通じて、21世紀の我が国と産業界の発展に貢献することにある。

ヒト・モノ・カネが連携しながらグローバルな規模で移動し、国境を越えたサプライチェーンが緊密に形成されている現代において、ロジスティクスはもはや経済の特殊な分野などではなく、世界経済そのものを動かす動脈になっている。そこで、将来社会に出て如何なる分野で活動するにしても、経営改善と企業価値を高めるためのマネジメント能力に合わせ、ロジスティクスソリューションを活用した「全体最適化」の視点を持つことは、我が国経済の未

【学長の活動】 2013年10月～2013年11月

10月

- 1日 筑波大学創立記念式典出席
- 2日 県立取手松陽高校、藤代紫水高校訪問
- 3日 県立那珂高校、佐和高校訪問
- 8日 久川太郎、高松薫元教授の名誉教授称号授与式
- 9日 県立守谷高校訪問
- 11日 県立古河第三高校、境高校訪問
- 12日 OPEN CAMPUS保護者説明会挨拶
教職員野球部優勝祝賀会
校友会8期挨拶
- 19日 習志野高校PTA見学挨拶
- 22日 拡大全学入試協議会
大学協議会
重点部指導者懇談会
- 29日 理事長懇談会
- 30日

11月

- 1日 上智大学創立記念式典出席
- 5日 北京物資学院学長来訪
- 6日 武蔵大学 清水学長訪問
- 9日 指定校推薦等入学試験
- 12日 拡大全学入試協議会
学部長連絡会議
教職員勤続30年表彰式
常磐大学 森学長訪問
日刊工業新聞インタビュー
理事長懇談会
大学協議会
NPO法人たすけあいの会
ふれあいネットまつど講演会挨拶
- 13日
- 19日
- 25日
- 26日
- 30日

※3 PBL(Project Based Learning)：問題解決型授業。教員から出された課題に対して学生が自主的に学習し、主に学生間の質疑応答によって授業を進める。

※1 グランドデザイン(grand design)：長期間にわたって行われる大規模な計画の全体を総合的に見渡した構想。

※2 イノベーション(innovation)：社会的に大きな変化をもたらす人や組織、社会などの幅広い変革、革新。

ウエスト バージニア

大学

留学記

山岸直基

(社会学部准教授)

第4回
(最終回)

ウエストバージニア

大学を

愛している人たち、 そしてパーカーの話

この連載の最後に、大学を取り巻く人たちの話をしようと思います。
モーガンタウンに住んでいる人たちは
みんなウエストバージニア大学のことが大好きなのです。

まずこの街を語るには大学生について語らなければなりません。住人の半数ぐらいは大学生かもしれません。そしてその大学生たちはフードがついたパーカーが大好きです。なぜそんなにパーカーを好きなのかわかりませんが、とにかくみんな大好きです。そしてリュックサックで大学に来ます。こちらの教科書はどれも大きなサイズで荷物が重くなるのでこれは納得です。そんなわけで、男子学生は、ジーンズにパーカー、リュックサックが定番となります。一方、女子学生は、冬は男子学生と似た服装ですが、夏に様変わりし、多くの人がビーチサンダルで大学に来ます。そしてもう一つの驚きは、学生が雨のときでも傘を差さないことです。

雨の中、パーカーをかぶって平気で歩くのです。この国では、傘を差す習慣がないのではと疑ったぐらいです(きちんとした大人は差します)。学生が大好きなパーカーは大学の売店でも販売されています。そこでは、大学のロゴが入ったさまざまなグッズが売られています。文房具だけでなく、さまざまな服もあります。パーカーだけでなく、Tシャツ、スウェット、ダウンジャケット、帽子、マグカップ、バッグなどがあり、ス

ウェットやマグカップには親切に、子供用、赤ちゃん用、お父さん用、お母さん用、おじいちゃん用、おばあちゃん用などと記載されたものもあり、家族みんなで大学グッズを持つことができるようになっていきます。私が訪れたアメリカの多くの大学でこのようなグッズを販売していたので、アメリカの大学の一般的な傾向のように思います。また、大学ごとに大学のカラー(色)が決まっています、この大学の色は、紺色と黄色の二色でした。

学生が着ているパーカーをよく見ると、その多くがWVU(あるいはWV)という大学のロゴ入りです。大学のパーカー自体も毎年季節ごとにデザインが新しくなるので、同じ大学のロゴ入りで続



近くの「フィッシュボウル(金魚鉢)」というバーで提供される「金魚鉢」のビール



街中でも大学のロゴの入った旗が飾られていました

その一方で、大学院生は学部生たちと比べると穏やかな人たちが多くいます。年齢が学部生よりも上ということもありますが、それだけではないように感じました。大学院に来るような人たちは、学部生のところから穏やかだったのではないかと思うこともあります。

でもそんな彼らも、WVUのバスケットボールの試合を見に行くのは大好きだし、大学のパーカー着用率もそれなりに高いです。

学生も街の人たちも大学を愛している、そんな街で二年を過ごしたわけですが、あつという間に過ぎ去ってしまいました。もう少し長く滞在できれば、とも思いましたが、名残惜しいうちに帰ってくるのが良いタイミングなのかもしれません。街ぐるみでの大学のエネルギーを感じた貴重な経験でした。

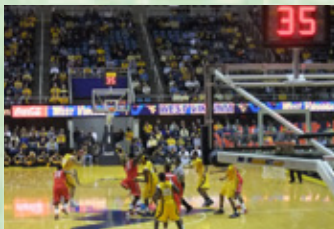
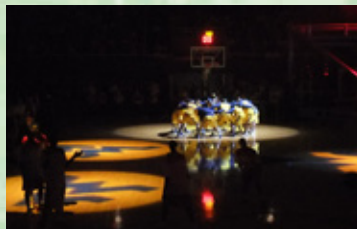
Profile

山岸直基 やまぎし・なおき

高校時代にカウンセラーを目指し埼玉大学に入学。臨床心理学を学びはじめるが、行動分析学に“はまる”とともに、カウンセラーに向いていないことに気づき、関心が基礎研究にシフトしていく。卒業後、駒澤大学大学院に入学し、本格的に行動分析学の世界に足を踏み入れる。その後、2006年4月に流通経済大学に着任。現在は、社会学部社会学科准教授。

一性がありながら、学生はみんな少しずつ異なった服装になっています。大学のロゴ入りの服をよく着るということは、学生が大学のことを好きなのだと思います。さらに、街の人たちもよく大学のロゴ入りの服を持っています。年配の人たちも大学のロゴ入りのパーカーで出かけるのをよく見ます。街の人たちも大学を誇りに思っているようでした。大学の街モーガンタウンは普段学生だらけですが、夏休みや冬休みなどの長期休暇になると二斉に街からいなくなります。みんな自分たちの実家に帰るそうです。休み中に大学に顔を出すのは、心理学専攻の大学院生のうち、動物実験をしている人たちなど、ごく一部の人たちだけです。モーガンタウンはそもそも大学の街なので、学生がいなくなるととても静かになります。違う街に来たかのようにです。その時期だけモーガンタウンの人口が半

分あるいはそれ以下になるといわれています。そして、また大学が始まると、大学内だけでなく、街全体が学生たちでにぎわうようになります。特に大学のアメリカンフットボールのチームやバスケットボールのチームが重要な試合に勝った日の夜は大変です。スタジアム周辺だけでなく街中大騒ぎです。そんな日には学生も、モーガンタウンに住む人たちも一緒に大騒ぎです。街のバーにはたいがい大画面のテレビがあり、そこで、アメフト、バスケの試合を楽しむことができます。そのため、そんな日のバーは夜遅くまで大賑わいなのです。



左から
バスケットのホームゲームでの
オープニング/バスケットの試
合中のひとコマ



左から
アメフトのホームゲームでの
選手入場シーン/観客は大学のパーカーやトレーナーを着ているので
紺色と黄色で埋め尽くされます

					
[国際交流課]	[スポーツ健康科学部]	[法学部]	[流通情報学部]	[社会学部]	[経済学部]
三宅隆史 職員	五十嵐 卓 講師	周 作彩 教授	関 宏幸 教授	川崎 愛 准教授	飯野敏夫 教授
成長していく学生	私の役割	体制が異なっても 直面する問題は同じ	私の専門、 コンピュータ? 人間工学?	出会いと仕事	マルクスと現代
「学ぶことが楽しいと感じた」「もっと外国の人と英語でコミュニケーションをとりたかった」「自分の英語力のなさに気付いた」。海外で留学を経験した学生は、様々な体験や経験を積んで帰国します。 留学生生活を終え、空港に出迎えたときの表情を見たり、感想を聞いたりすることがとても楽しみです。学生からの話を聞くと、沢山の苦労話や、文化の違いなどで感じた戸惑い、さらにホストマザーの優しさ等、自身の留学体験が充実した時間だったことがわかります。 休暇中に旅行等で海外に行く場合を除いて、本学から外国へ留学する学生は年間25名程度。まだまだ本学の派遣留学は始まったばかりです。様々なチャンスが潜んでいる流通経済大学で仕事ができることにやりがいを感じています。 入職して6年。日々変わっていく学生の表情を見ることが楽しみです。本学に入学して様々な経験や体験を通じて、成長していく学生を一番近い部署から見るができることに喜びを感じます。	主として教養科目の日本史・歴史学を担当しています。 私は大学、大学院を通じて日本近代史を専攻して、その後に職業としたのは資(史)料館の学芸員でした。 資料館の学芸員は、展示会を企画すること、史資料を調査・研究・保存することなどを主な仕事とします。本学の三宅雪嶺記念資料館における仕事を含めて、私は四半世紀ほど学芸員を続けてきました。 その経験を踏まえながら、特に史資料を読むことを重視して、担当の授業を展開していこうと思いつけています。それは、私が読むことであったり、聴講の学生さんが読むことであったりします。 日本書紀や養老令から西郷隆盛書簡や三宅雪嶺の著作まで、少しずつですが、幅広く伝えようと思ひ、読み進めています。 日本史について、史資料を読み解くことによって考えること、そうした実践を通じて、抽象度の高い「歴史学」という学問について、ささやかにでも思うこと、それが私の役割であると思っています。	本誌に登場するのはこれが2回目。前は2010年にアメリカはコロンビア大学への留学体験記を連載しました(vol.10～13)。 専門は行政法。授業では日本の行政法を教えておりますが、研究では広くアメリカ、日本、中国などを対象としています。 アメリカは気軽には行けませんが、中国には帰省もかねてよく行きます。昨年の夏も行政改革をテーマとした国際シンポジウムに参加しました。行政改革は決して日本だけの問題ではなく、各国共通の課題なのです。体制が異なっても、直面する問題はそう大きく違いません。 何年かぶりに実家のある江西省にも帰りました。さらに十何年ぶりに生まれ育った村にも行ってきました。村は日本と同じく過疎化が進んでおり、私が通った小学校はすでに廃校になっています。おかげでかつて過密化した人間たちに荒らされた山は少しずつ緑を取り戻しています。そこには、いま日中間で防空識別圏やら何やらで諍(いさか)めていることを想像させない、穏やかな時間と空間が広がっておりました。	私が流通経済大学に赴任したのは、流通情報学部が開学した1996年です。現在は「コンピュータ・グラフィックス演習」、「Webデザイン演習」などの情報系の演習科目と「ヒューマンインターフェイス論」、「エルゴノミクス論」という専門科目およびゼミ演習科目を担当しています。 私の本来の専門(!)は、「人間工学」です。これは、人が安全で、快適に、効率よく働いたり、生活することを狙いとした分野です。日頃我々が接する機械やシステム、組織、居住環境など多くのものの設計・運用にその成果が生かされています。私は「働く人間」を中心に研究を進めています。 また、コンピュータが趣味(?)で、学生の卒業研究の指導と称して、「脳波でコンピュータを操作する機械」「モーションキャプチャ」「唾液でストレス測定する機械」など怪しげな機器も多数所有しています。 自分の興味分野に貪欲なこんな私ですが、学生にもさまざまなことに興味を持って自ら取り組んでくれることを望みます。	大学で社会福祉を学んでいた頃、望んで岡山の長島にあるハンセン病療養所へ実習に行った。当時は国家賠償請求訴訟の前であり、看護学生や医学生が訪れることはあっても社会福祉の学生の受け入れは初めてで看護部長室を拠点に3週間弱、何人もの方の居室で話を伺った。完全なよそ者であったためか話への興味が尽きず、しばしば園内放送で看護部長室に呼び戻された。100人を超える看護職を率いる看護部長や副看護部長は口八丁手八丁で、私はよほど呑気に見えたのだろう。「あなたは現場には向かない。研究者にないなさい」と言われた。 弱い立場におかれた人たちの声を記す仕事がしたい、と子どもの頃から思っていて、大学院の途中で助手となり、教育に関わることになった。 どんなに強い立場の人も人の助けなしに一生を終えることはできない。 人は弱者にも強者にもなり、他者の助けになれる。授業では弱者が生きやすい社会の構築を考えている。十数年前の療養所での出会いが私に力を与えてくれる。	本学に移って来て、15年近くになります。講義は、「日本経済論」などを担当しています。もうじき還暦で、教員生活も30年を過ぎました。その間、現代の日本や世界の経済をマルクス経済学によって分析することを研究課題としてきました。 そう言うと、「今でもマルクスですか?」と思うかもしれません。確かに、「マルクス主義」を標榜する社会主義国は、あらかた姿を消してしまいました。だから、マルクスの理論は歴史によって否定された、と当然のように言う人は少なくありません。でも、マルクスの経済学は、歴史を予言したものではありませんから、そういう言い方は正しくはありません。歴史の根底には「生産力の発展」がある、というのがマルクスの教えるところですが、彼の死(1883年)の後、どういう生産力がどのようにして発展するかということをマルクスが知るはずもなかったからです。マルクス以後の歴史は、予言者ならざるマルクスに尋ねるのではなく、マルクスの経済学などの理論に基づいて我々が考えるしかないわけです。



馬場啓一の RKU ウォッチング RKU Watching

【第23回】
社会学部
アダム・ジェネス
講師

Adam Gyenes × Keiichi Baba

● Adam Gyenes / アダム ジェネス

英国ロンドン出身。2003 年に来日し英語教師として高等教育、大学教育に携わる。早稲田大学、明海大学で教鞭を取り、2013 年 4 月より流通経済大学社会学部国際観光学科の専任講師に就任する。研究テーマは教育学（日本の大学における国際化教育メソッド）。今後は英語教育教材の開発にも注力したいと考えている。趣味は音楽（ギター、ドラムの演奏だけではなくレコーディングも）と料理。



スやオーストリアに行つてやるスポーツです。だから最初は驚きました」
なるほどね。アダム先生ご自身は、小さい頃からサッカーをよく観戦していたそう。英国は本場だから。趣味はロックで、自分でロック・バンドを持つているという。ジャズも聴くが、ロックほど好きではないらしい。

「苗字はジェネスですが、皆さんアダム先生と呼ばれるので、アダム先生で結構です」
実に気さくで親しみやすく、そして優しい面立ちの方である。「ポジティブに生きることを学生たちに教えています。さらに本学では、より多くの学生に、英語の愉しさを教えていきたいですね」

今回のアダム・ジェネス先生（Adam Gyenes）は英国の国籍。でも御両親のお生まれはハンガリーとチェコスロバキアだという。大いに国際的である。「来日して二〇年ほどになります。もちろん英語を教えてください（笑）。早稲田大学の国際教養学部で八年ほど教えた後、本学に赴任しました。年齢は三五歳です」
実にスラスラと日本語が出てきて、こちらの方が戸惑ってしまうほどである。

「妻が日本人で、英国で知り合い、日本に来ました。子供は二人。女の子と、男の子がいます。住んでいるのは埼玉県の和光市」
ちょっと遠いですね。でもせっせと楽しそうに通つていらつしゃる。木曜日は新松戸で教えられており、小生と同じなので、顔が合えばヤアヤアという感じである。ちなみにご担当はハコマ。結構多いですね。
「でも、全般的に英語に自身を持つていない学生が見受けられるのが、残念です。もっと自信を持ってほしいのに、と思います」
それは同感である。小生の英語は相当いい加減だが、意地と度胸で世界中を渡ってきた。日本人はもっと英語に自身を持つべきだ。
「妻は札幌の出身なので、当然のようにスキーをやりますし、上手です。でも英国でスキーといえは、お金持ちがスイ

「ポジティブに生きること
学生たちに教えています」

本学は人使いが荒いのでしょ
うかと尋ねると、それはな
いと強く否定された。

「社会学部の国際観光学科でゼミを持っています。本学では学生一人ひとりに強い目的意識、つまりどうして英語を学ぶのか、という自覚が強く感じられるので、教えていて嬉しいです」

それは嬉しいことを聞いた。また龍ヶ崎でスポーツ健康科学部の学生に教えていても、同様の手応えを感じるといふ。

「でも、全般的に英語に自身を持つていない学生が見受けられるのが、残念です。もっと自信を持ってほしいのに、と思います」

それは同感である。小生の英語は相当いい加減だが、意地と度胸で世界中を渡ってきた。日本人はもっと英語に自身を持つべきだ。

「妻は札幌の出身なので、当然のようにスキーをやりますし、上手です。でも英国でスキーといえは、お金持ちがスイ



OB

苦勞して取得した 国家資格を仕事に 生かすことができました。

——柴田さんは本学の国際観光学科に九九五年四月に入学されたということですが、本学に進学された理由は？

私は将来、観光業に携わりたいという希望を持っており、進学においてもそれを踏まえて大学を考えておりました。もちろん、専門学校で即戦力的な技術を学ぶという道もあったのですが、やはり学問として「観光学」を学んでみたいと思っていました。当時は、観光を学ぶことのできる大学は全国に六校程度しかなかったのですが、流通経済大学は観光業界への就職に強いということも魅力となり、進学を決めました。

——高校のころから、すでに将来の進路を考えていたのは、素晴らしい進路を考えていたのは、素晴らしい

方で自立していかなくてはという気持ちを持つこともできました。——サークルやアルバイトなどはいかがでしたか。

サークルはシャロームという大学公認サークルに参加していました。あしなが育英基金の募金活動をしたり、地元の子どもたちとクリスマス会をしたりといったボランティアの他、つくばね祭では、子供たちが参加できる学内探検ゲームなどを行いました。もちろん、夏合宿やスキー合宿などもありましたし、とても楽しい思い出です。アルバイトは地元のパン屋さんやホテルの配膳人などをしてしました。特にホテルのアルバイトでは、流経大以外の学生の友達ができ、とても刺激を受けました。

——卒業後は、静岡に戻って就職されたんですね。

はい。当時は大変な就職氷河期で、志望先については旅行業やホテルに絞らずに広く考えようとも思ったのですが、母親から「自分のやりたいことは何であるのかを忘れてはいけない」とアドバイスを受け、私がやりたいことは静岡でもできる、と思いUターンを決め、静岡の中島屋というホテルグループに就職を決めました。そ

OB/OG訪問 立川が 聞く。

社会学部国際観光学科からホテルに就職、その後転職を経て現在は貸切観光バスを運行する静鉄ジョイステップバス株式会社の営業職として活躍中の柴田美穂さんです。

第31期生
(1999年3月 社会学部卒業)

柴田美穂 さん

Miho Shibata

〈取材〉
立川和美 (社会学部准教授)



しいですね。

実は、中学生のころから、修学旅行や家族旅行などで、添乗員さんやホテルの方などのお仕事をりを拝見していて、お客様を笑顔にできる仕事の素晴らしさを感じ、憧れていたんです。それが観光業界に興味を持つきっかけとなりましたね。

——大学に入学して、待望の観光学を学ぶようになったわけですが、いかがでしたか？

本当に楽しかったです。観光学科の一年ゼミでは、JTBの時刻表を使い、旅行のコースを作ったりして、その上で、代金を計算し、お客様の立場ではその価格は適正であるのか、パッケージ旅行はどうして安価になるのかなどを考

を勧められたんです。

——ということは、大学での資格取得がまさに役だったわけですね。

そうですね。国家資格は履歴書にも書ける一生ものだから、ということでも当時同じゼミの仲間と一緒に勉強しました。夏休みは夏季講習に通い、補講の授業などにも参加して頑張ったのは、いい思い出です。苦勞して取得した資格を生かすことができたのは、とてもうれしいことでした。

——女性の営業職というのは、大変なお仕事ですよ。

確かに女性の営業マンは少ないのですが、ぜひやってみたいと思っていた仕事です。やりがいがあります。私の仕事は弊社の観光バスを借り上げていただくために提案営業をするというものです。その業務内容はたいへん多岐にわたっています。学校での社会科見学や企業での視察、子供会のデイズニリーゾートツアーなどでバスを使っていた他、閑散期には主催旅行を企画してお客様を募集し、稼働率を高めたりしています。最近、第二東名高速の開通前に高速道路をウォーキングするツアーや、開通後には開通記念ツアーとしてその高速道路

えるなど、本当に興味深い授業でした。三年生からは本格的に専門の勉強が始まりましたが、たとえば、お伊勢参りなど、信仰から始まる観光の歴史やエリア研究など、学問的に観光を学ぶ経験ができました。また三年で谷内洋一郎先生のゼミに入ったのですが、勉強はもちろん、先生が発起人となった「観光クラブ」という組織を通して卒業生で観光業界にいらっしゃる方々との交流など、生の現場の声をうかがう機会を得ることもできました。こうした交流は、現在でも続いています。また、先生自身が日通旅行のアメリカの支店でご活躍されていたため、実践的なお話を踏まえた勉強ができました。本当に感謝しています。

——柴田さんご実家が静岡県藤枝市ということですが、四年間は親御さんのもとを離れて暮らしていたのですよね。

はい。一年生から一人暮らしを始めました。当時は、そういう友達も多く、お互いの家に行ってご飯を食べるなど、協力し合っていましたね。親元を離れることで、家族のありがたみを深く感じることもできましたし、また二

——最後に、大学生活を送る学生にひとことお願いいたします。

就職を考えた時に、大学時代に身につけてほしいことのひとつとして語学力があります。語学力はそれだけで就職が有利になり、選肢肢が広がる武器です。英語はもちろん、もし興味があればもう一つ何か得意な言語を身につけてほしいと思います。それから大学時代は自分のための時間がたくさんありますから、それを有効に活用してください。今ならば、積極的に海外に出てみるのもよいと思います。社会に出てからも学ぶことは多いのですが、自由な時間という点では圧倒的に大学生の方が豊かです。まとまった時間をうまく使って多くの貴重な経験を積んでほしいと思います。

——ありがとうございました。

はきはきとした受け答えとショートカットがお似合いの柴田さんは、毎日が大変充実していてウィークデーはあつという間に過ぎてしまふとのことでした。プライベートでは、今年の5月にご結婚されたばかりで、お休みの日は御主人様とゆっくりとお買い物やお料理を楽しんでいるとのこと。「同じものを食べて同じ時間を楽しむことが、今は一番です」とおっしゃる時にはこやかな若奥様の表情をお見せになりました



Wonderful Life Stories with
Dr. Kazumi Tachikawa



【校友会】

8 期生同期会開催

2013年10月19日、本学8期生の同期会が龍ヶ崎キャンパスにて開催されました。還暦を迎えた皆さんは、再会した旧友たちと学生時代の思い出や近況について、時間が経つのも忘れて語り合っていました。



【図書館】

2013 年度 第 2 回 流経大読書コメント大賞 受賞作品決定

流経大読書コメント大賞は、本を読み、どう感じ、何がよかったかなどのコメントをA4用紙にポップ広告風の作品にまとめてもらい、その中から優秀な作品を選考する企画です。
10月に行われた第2回の流経大読書コメント

大賞には102点の応募があり、8点がコメント大賞に、27点が優秀賞に選出されました。各作品とも、その表現のセンスの良さには素晴らしいものがあります。

■2013年度 第2回読書コメント大賞

茅根晴美（国際観光学科 1 年）
「舟を編む」
三浦しをん 著（光文社）

Ge Qian（流通情報学科 1 年）
「渋沢栄一」
土屋喬雄 著（吉川弘文館）

Weng Qingyun（国際観光学科 3 年）
「なぜ、逃げた犬は追ってはいけないのか」
川村透 著（こう書房）

生井敬也（経済学科 3 年）
「身のまわりのモノの技術」
涌井良幸、涌井貞美 著（中経出版）

長谷川尚輝（経営学科 2 年）
「高瀬舟」
森嶋外 著（新潮文庫）

齋藤優華（社会学科 1 年）
「マリアビートル」
伊坂幸太郎 著（角川書店）

梅原 翔（経済学科 4 年）
「ビールの文化史」
春山行夫 著（平凡社）

若松咲乃（経営学科 1 年）
「むすびびと：こころの仕事」
一条真也 著（三五館）

講演会「戦前期日本の家庭のさまざま一言論人・教育家の家庭」開催

2013年11月16日、三宅雪嶺記念資料館主催の講演会「戦前期日本の家庭のさまざま一言論人・教育家の家庭」が、新松戸キャンパス講堂にて開催されました。

千葉公子氏（婦人之友社社長）による講演「婦人之友社のこと・自由学園のこと・羽仁吉一 もと子夫妻のこと」、三宅立雄氏（三宅雪嶺嫡孫・本学名誉教授）による講演「三宅家の家庭のこと・三宅家親族のこと」のほか、関連企画展として「三宅雪嶺85年の生涯」も開催され、多くの方々が訪れていました。



学校の教授の計らいで、授業履修者でホテルの現場へ実習に行ったときです。自分の中では日本語に自信をもっていたのですが、実際の現場を見学して、今の語学力では全然通用しないと痛感しました。また、海南島へは、年間約三万人ほどの日本人観光客が訪れること、しかし、現地ガイドが二〇〇人程度しかおらず、人手が足りない

——なぜ日本で学ぼうと思ったのですか？

中国の海南島にある専門短期大学（三年課程）で観光と日本語について、勉強していました。卒業後の進路は、現地ガイドなど観光業に就く人が多い学校です。
入学して一年目は、観光業界で働くための知識についての勉強やマナー講習、二年目からは、ホテルでの会話やフロントでの作業などを中心に学んでいきます。

例えば、千葉の国際交流協会のイベントでは、翻訳をしながら、茶道や着物の着付けといった日本文化の体験。東日本大震災の時は、現地の様子をまとめて江西省に報告したんです。メディアで最新ニュースとして取り扱っていただきました。二〇一二年はチーバくん大使として一年間、千葉県各所をめぐり、県内の魅力（観光・食・

——どんなことに取り組みましたか？

ことも知りました。私は、海南島を訪れる観光客を増やしたい、現地ですっかりとおもてなしできるようにしたいと考えて、そのためには日本（人）について、もっと知る必要があると考えました。

将来は海南島を訪れる日本人観光客に対して、おもてなしできるようにしたいと思っています。

——いろいろ、経験していますね。まもなく卒業ですが、進路はどうするつもりですか？

留学してから、四年間の生活で友だちもたくさんでき、いろいろな体験の中で日本について知ることができました。卒業後は、関西の大学院で観光政策についてさらに研究しながら、関西特有の文化についても学び、日本人をもっと知りたいと思っています。

Hello!
international
student!



留学生
紹介

vol.24

卒業後は関西の大学院へ進んで観光の研究を続けるとともに、関西特有の文化にも触れたいという中国江西省出身の徐さんです。

取材:沖野雅広(企画広報室)



「日本人についてもっと知りたい！
その気持ちが私の原動力」

社会学部国際観光学科4年 徐 曩（ジヨミョウ）さん Xu Niao

RKU Schedule

2014年1月～2014年4月

全学

1月

21日～2月3日 ● 秋学期定期試験

2月

4日～3月31日 ● 春季休業

3月

20日 ● 卒業式

4月

1日 ● 入学式

就職関連 〈就職ガイダンス〉

1月

27日～29日 ● 業界企業説明会(新松戸)

29日～30日 ● 業界企業説明会(龍ヶ崎)

〔編集後記〕

●2014年(平成26年)「RKU Today」も回を重ねて第26号となりました。

我が流通経済大学も来年(2015年)には創立50周年を迎えます。企業30年節と同様、大学も50年を一つの節目と捉え、時代の変遷に呼応して様々なシステムの見直しを図るいい機会かもしれません。

●インターネットの普及により、リアルとネット(サイバー)の隙間が限りなく薄くなってきたように感じます。大学のキャンパス内でも携帯端末、Pad、薄型PC等が筆記用具とノートに代わって主役になりつつあります。特に流通分野においては尚更顕著です。日常生活品が店舗での購入からネットを利用した購入に変わりつつあります。お米、薬、交通機関の切符等々、自宅に居たままでほとんど何でも手に入れることができるようになってきました。しかし、どんなにインターネットが進化しても外すことができない業態があります。

それは「物流」です。

流通経済大学創立の原点は「世界に通用する物流のプロ」を育成するために創られた大学でした。

創立50周年に向けてもう一度原点に戻り、アジア、アフリカ、中南米等世界の多くの国々が現在最も注視している交通インフラを含む「物流」分野においては日本を代表する大学に位置付けられる様、更に切磋琢磨する所存ですので、関係各位の皆様におかれましては流通経済大学に対し、より一層のご支援の程よろしくお願いいたします。

(編集子)

たかまどのみやはい

高円宮杯 U-18 チャンピオンシップで付属柏高校が優勝

12月15日、高円宮杯U-18チャンピオンシップの決勝が行われ、神戸ユースを破り、高校勢として初めての優勝を果たしました。



写真提供：高校サッカー年鑑

第48回つくばね祭開催

11月2・3日の2日間、龍ヶ崎キャンパスの学園祭「つくばね祭」が開催されました。

ゼミや部活動の仲間たちで協力して出店した模擬店や、演技披露など盛りだくさんの内容でした。開催期間中は、在学生、卒業生、地域の方々にご来場いただき、盛況のなか終了いたしました。



クリスマスコンサート開催

5

12月22日、新松戸キャンパス講堂にて本学吹奏楽部によるクリスマスコンサートが開催されました。当日は地域の皆様にもご来場いただき、クリスマスムードあふれるコンサートを楽しんでいただきました。



「新松戸 光のフェスタ」開催

4

11月23日に新松戸キャンパスで「第10回 新松戸 光のフェスタ」点灯式が行われ、12月25日の収灯式までの期間、街中の各所が美しい光で彩られました。



NEWS & TOPICS

関東大学ラグビーリーグ優勝

1



本学ラグビー部が11月16日に江戸川区陸上競技場で行われた、関東大学ラグビーリーグの中央大学戦に25対0で勝利し、2年ぶり2度目のリーグ優勝を決めました。



全日本新体操選手権大会個人総合優勝

2

11月22日から東京の代々木第一体育館で行われた全日本新体操選手権大会において、新体操部の山口留奈さんが個人総合で優勝し、3連覇を果たしました。

〔個人総合〕

山口留奈さん(スポーツ健康科学科3年) **優勝**

小西夏生さん(スポーツ健康科学科3年) **19位**

〔個人種目別決勝〕

山口留奈さん(スポーツ健康科学科3年) ボール、リボン **優勝・フープ、クラブ 2位**

また、12月8日にはスポーツ健康センターで新体操部の発表会も行われ、見事な演技を披露していました。



2014年度入試日程

経済学部[経済学科・経営学科]

社会学部[社会学科・国際観光学科]

流通情報学部[流通情報学科]

法学部[ビジネス法学科・自治行政学科]

スポーツ健康科学部[スポーツ健康科学科]

入試種別	期	出願期間	試験日	合格発表	試験場
奨学生選抜	3科目型	I 12/16 月 ~ 1/28 火	2/1 土	2/6 木	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・高崎・静岡・水戸
		II 12/16 月 ~ 2/7 金	2/12 水	2/18 火	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 大阪・小山・郡山・長岡
		III 12/16 月 ~ 2/19 水	2/24 月	2/28 金	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸
	大学入試 センター試験 利用型	I 12/16 月 ~ 1/31 金	個別試験は 実施しない	2/10 月	—
		II 12/16 月 ~ 2/28 金		3/10 月	—
一般	3科目型	I 12/16 月 ~ 1/28 火	2/1 土	2/6 木	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・高崎・静岡・水戸
		II 12/16 月 ~ 2/7 金	2/12 水	2/18 火	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 大阪・小山・郡山・長岡
		III 12/16 月 ~ 2/19 水	2/24 月	2/28 金	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸
	問題自由 選択型*	I 12/16 月 ~ 1/28 火	2/5 水	2/10 月	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・水戸
		II 12/16 月 ~ 2/7 金	2/13 木	2/18 火	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 大阪・小山・郡山・長岡
		III 12/16 月 ~ 2/28 金	3/5 水	3/10 月	龍ヶ崎・新松戸・東京・ 仙台・高崎・静岡・水戸
大学入試 センター試験利用	一般	I 12/16 月 ~ 1/31 金	個別試験は 実施しない	2/10 月	—
		II 12/16 月 ~ 2/28 金		3/10 月	—

※一般入試(問題自由選択型)とは

国語・外国語・数学から、それぞれ大設問を2問ずつ(合計6問)出題。そのうち2問を自由に選択できるので、得意科目で受験できます。

外国語
1

外国語
2

国語
1

国語
2

2問を
自由に選べる!
各50点 100点満点

数学
1

数学
2

例1 得意科目【国語】のみで受験

国語1と国語2で
受験できます。

国語
1

国語
2

例2 苦手科目【数学】以外で受験

国語1と英語2で
受験できます。

国語
1

外国語
1

詳しくは受験生向け
スペシャルサイトへ

Special Website

http://www.rku.ac.jp/go

http://www.rku.ac.jp/go/m



流通経済大学入試センター

0120-297-141

ees@rku.ac.jp

RKU RYUTSU KEIZAI
UNIVERSITY

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.26** 2014年1月発行

編集・発行／学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL:0297-64-0001(代表)

